

国外実態調査報告書

テーマ : ルクセンブルクにおける文化、教育、研究についての実態調査
ゼミ名 : 潮 清孝 ゼミ
調査日 : 2023年8月25日(金)～8月31日(木)
調査先 : 【ルクセンブルク】ルクセンブルク大学、在ルクセンブルク日本大使館
授業科目名 : 演習Ⅰ・Ⅱ、演習Ⅲ・Ⅳ
参加学生数 : 8名(3年生)、1名(4年生)

調査の趣旨(目的)

ルクセンブルク大学および在ルクセンブルク大使館を訪問し、日本における大学教育、研究および文化の違いなどについて議論を行う。

調査結果

先着組は8月25日(金)に、大使館・小林様と事前に面会し、ルクセンブルク滞在中のスケジュール確認および市中散策などを行った。ルクセンブルクは、一人当たりGDPが世界で最も高く、日本の約3倍近くもある、世界有数の豊かな国である。公共交通機関がすべて無料であるにもかかわらず、乗車案内システムなどは非常に洗練されており、また、街の様子も、穏やかかつ安全で、随所に国の豊かさを感じることができた。

ルクセンブルク大学および在ルクセンブルク大使館では、当ゼミの活動(創業体験プログラム)について、英語および日本語でプレゼンテーションをすることになっており、出発前および、訪問前日には、その内容の最終確認などを行った。

8月29日のルクセンブルク大学訪問では、副学長らから、同大学の特徴などについて、英語で説明を受けた。創立20年ほどの非常に若い大学であるが、政府からの多額の助成の影響もあり、AI、情報、法律などの分野で、すでに世界トップレベルの研究水準にあることなどが紹介された。特に、修士課程以上の課程に力を入れており、学士課程と修士・博士課程の学生数が同数程度など、研究に力を入れている大学であることなどが印象的であった。

8月30日には、大使公邸を訪問し、当ゼミからのプレゼンなどを行ったうえで、両国の文化、教育、研究についての違いなどについて意見交換を行った。ルクセンブルクは、EU関連の組織や、各企業の本社などが多数存在することから、国の規模以上に、ヨーロッパの中で存在感があることなどがわかった。今後も、大使館の方々と連携を密にしながら、現地大学や企業などとの連携を模索することなどについても話し合い、次年度以降も、再度、ルクセンブルクを訪問する案についても議論を行った。